


沖縄国際大学 2025 年度 F D 支援プログラム成果報告書

下記内容により、F D 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「F D 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	劉 森 	所属・職名	日本文化学科・講師
プログラム名称	大学第二外国語としての中国語教育における CLIL（内容言語統合型学習）の応用—教育映像資源の最適化と実践的活用—		
実施及び成果の要旨	<p>本研究では、主として中国語映像コンテンツのデータベースの作成を実施した。具体的には、沖縄国際大学の Gmail アカウントを活用し、Google ドライブ上に、日本および中国から自由にアクセス可能な動画コンテンツを中心とする中国語映像資料を体系的に収集・整理した。収集対象には、会話教材、ドキュメンタリー、ニュース、文化紹介、アニメーションなど多様なジャンルのコンテンツを含め、学習者のレベル（初級・中級・上級）および学習目的（会話習得、文化理解、時事把握など）に応じて分類を行った。さらに、各コンテンツに概要、対象レベル、活用方法等の情報を付与することで、教育現場において即時に活用可能なデータベースとして整備した。なお、本データベースについては、今後も継続的に更新・拡充を行う予定である。</p> <p>また、これらの映像コンテンツを副教材として活用し、CLIL（内容言語統合型学習）の理念に基づく授業実践を行った。「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」「外国語研究 A」「外国語研究 B」において、動画コンテンツを授業の一環として計画的に導入し、単なる視聴にとどまらず、内容理解、語彙・表現の抽出、要約、意見交換、発表活動等を組み合わせた統合的な学習活動を展開した。これにより、言語知識の習得と社会・文化的背景の理解を同時に促進する授業設計を実現した。</p> <p>さらに、授業内容の発展として、2024 年度から 2025 年度にかけては「中国語Ⅲ」および「中国語Ⅳ」において中国文化を主軸とした CLIL 授業を実施し、2026 年度以降は、日本文化をテーマとし、中国語を媒介言語として学ぶ授業へと展開している。今年度（2026 年度）からは、中国語を用いて日本の社会や文化について「会話する・語る」ことに重点を置き、日本（沖縄との比較を含む）を中国語で紹介する活動へと発展させている。このような段階的な展開により、学習者に比較文化的視点を涵養するとともに、発信型の言語運用能力の向上を図った。</p> <p>その結果、学習者は実際の言語使用場面に即した自然な中国語表現に触れる機会を得るとともに、リスニング力および発話力の向上が確認された。また、映像コンテンツの活用を通じて中国社会や文化への関心が高まり、主体的な学習態度の形成にも寄与した。さらに、異なる視点から物事を捉える力や、自らの意見を中国語で論理的に表現する力の育成にも一定の成果が認められた。</p> <p>以上より、本研究で構築した映像コンテンツデータベースおよびそれを活用した CLIL 型授業は、中国語教育における有効な実践モデルの一つとして位置づけられる。今後は、データベースのさらなる拡充に加え、学習成果の定量的・質的分析を進めることで、より汎用性の高い教育モデルとして発展させていく必要がある。</p>		
実施期間	自： 2025 年 4 月 1 日 至： 2026 年 3 月 31 日		

※共同実施者（2人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

目 的	<p>本研究は、大学における第二外国語としての中国語教育に資する動画コンテンツのデータベースを構築することを目的とする。従来、日本語対応の教材は少なく、資源も分散しているため、公的教材および SNS 上のコンテンツを統合的に収集・整理する。また、CLIL（内容言語統合型学習）の理念に基づき、「中国語で学ぶ」授業を実践し、その有効性を検証することで、中国語教育における新たな教育モデルの構築に寄与することを目指す。</p>
活 動 内 容	<p>本研究における活動は、授業外でのデータベース構築と、授業内での CLIL 型授業実践の二つを柱として実施した。まず授業外においては、中国語動画コンテンツの収集・整理を中心に行い、データベースの構築を進めた。具体的には、多様な動画コンテンツの中から教育的活用が可能なものを選定し、テーマ別およびレベル別に分類するとともに、効率的に検索・利用できるよう体系的な整理を行った。次に授業内においては、CLIL の 4C（Content, Communication, Cognition, Culture）を基盤とした授業スタイルを導入し、動画コンテンツを授業の一部として積極的に活用した。「中国語Ⅲ」および「中国語Ⅳ」では、主に「世界遺産」「社会と人」「町と暮らし」「伝統文化」の 4 つのテーマに基づき、関連する動画コンテンツを授業に取り入れた。各動画は授業での活用を考慮し、5 分から 10 分程度の長さで編集されており、学習者が集中して視聴できる構成となっている。また、朝日出版社の中国映像シリーズ（有料版）を導入し、50 以上のコンテンツを収録した。これにより、学習者および教員が必要に応じて迅速に目的の動画へアクセスできるよう、検索機能の整備を行った。さらに、チャプター機能を活用することで、特定の場面へピンポイントで移動することが可能となり、効率的な授業運営を支援している。以上の取り組みにより、学習者は中国の伝統的な風習や日常生活の具体的な場面を映像を通して体感しながら学習を進めることができる環境が整備された。</p>
成果・結果・効果	<p>本研究の最も大きな成果は、中国語動画コンテンツの体系的なデータベースを構築した点にある。これにより、従来は分散していた多様な映像教材を一元的に管理・活用できる環境が整備され、教育現場における教材選定および授業運営の効率化が実現した。また、中国語動画を教材の一部として取り入れた日本語母語話者向けのテキスト（中国事情を中心としたもの、および日本（東京）事情を中心としたものの 2 冊）については、本学において CLIL 型授業として実践を行った。これにより、「中国語を学ぶ」から「中国語で学ぶ」への転換を具体的に授業に反映させることができた。さらに、授業後に実施した学生アンケートの結果からも、動画コンテンツの活用が学習理解の促進や学習意欲の向上に寄与していることが確認された。特に、実際の言語使用場面を視覚的に把握できる点や、文化・社会的背景と結びつけて理解できる点において、有効性が高いことが示唆された。以上より、本研究におけるデータベース構築および動画コンテンツを活用した CLIL 型授業の実践は、中国語教育における教材開発と授業方法の両面において有意義な成果をもたらしたといえる。本学の学生については、筆者の赴任当初、発話練習への取り組みが十分でないことや、主体性・積極性の面で課題が見られた。本研究では、動画コンテンツの活用やスキャフoldingを取り入れ、学習者が無理なく参加できる授業設計へと改善を図った。本学の学生の実態に即した効果的な授業運営がある程度実現された。</p>
今 後 の 展 望	<p>今後は、構築した中国語動画コンテンツデータベースのさらなる拡充と継続的な更新を進め、より多様な学習ニーズに対応可能な教育資源として発展させていく必要がある。また、中国語を用いて日本の社会や文化を発信するための教材の充実も重要な課題である。とりわけ、沖縄の歴史・文化・生活様式を中国語で紹介するためのコンテンツを体系的に整備し、地域性を活かした教育実践へと発展させていくことが求められる。さらに、他大学において実施実績のある中国語によるショートムービー制作活動についても、本学における導入可能性を検討する。加えて、今後の発展的課題として、以下の点も検討に値する。第一に、データベースのオンライン公開や共有化を通じて、他大学・教育機関との連携を図ることである（2026 年 8 月以降を予定）。第二に、動画コンテンツの教育効果について、学習成果の定量的・質的分析を行い、エビデンスに基づく教育モデルの確立を目指すことである。2025 年度には中国語Ⅲ・Ⅳの履修者数が減少したものの、2026 年度には回復傾向が見られる。このような変動状況においては、単純な効果検証は困難である。今後は社会情勢も踏まえ、履修者数の増加と維持を図るとともに、対象数を確保した上で本格的な検証を進める必要がある。以上のように、本研究は今後も教育実践と教材開発の両面から発展させ、中国語教育における新たな学習モデルの構築に寄与していくことを目指す。</p>